

ウッドミック

WOOD INDUSTRY & WOODWORKING MACHINERY INFORMATION CENTER

WOODMIC

2022
1

Vol.40 No.466



謹賀新年

<https://www.woodmic.com/>

飯田GHDがロシア極東最大の森林保有社・RFP社を600億円で買収

●2022(令和4)年 木材業界の年頭所感

- グローバルビジネス再開にむけた情報提供カンファレンス
- 2021 飛騨の家具フェスティバル開催
- 木のモノづくりを通して持続可能な社会へアプローチ／オークヴィレッジ(株)
- NFC タグによる里山広葉樹のトレーサビリティシステム／国産広葉樹活用プロジェクト
 - 日本バイオリンの歴史を100年先に残したい／鈴木バイオリン製造(株)
 - サイジング加工にウォータージェット加工システムを展開！／青山工機(株)
 - 性能保証をする「不燃木材」に国交大臣認定認可／ビッシュウ(株)
 - 【東北紀行①】宮城の雄、守屋木材(株)と関連工場を視る【前編】
- 突撃ひと言インタビュー！ 2022年、木工産業界の発展に向けた各社からのエール！
 - 森人回想録(5)「日々の暮らしと冬将軍」／千巻
- 仏・塗装機メーカー営業マンのつぶやき(1)「フランス発の塗装機器」／丹野栄一

ジャパンホーム&ビルディング ショー2021開幕

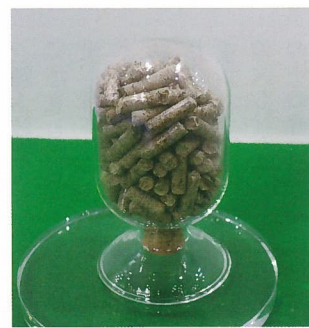
リアル展示会の場で新開発製品が多々披露!

(二社) 日本能率協会(中村正己会長)が主催する「ジャパンホーム&ビルディングショー2021」が、11月17日(水)〜19日(金)の3日間、東京ビッグサイト西ホールで開催された。



▲家具・楽器用材向けに抗火石と改質水による新乾燥技術を開発(フルタニランパー)

昨年に引き続きコロナ禍でのリアル展示会の鋭意開催となり、出展規模は195社445社小間。西ホールで同時開催したアジア・ファニシング・フェア2021と合わせた来場者数は3日間で8559名(同時開催の他来場者含めると1万137名)で、昨年展同等の集客規模となった。海外出展者は、国内拠点を有するカナダウッドが大きなツ



▲アブラヤシ幹繊維から作られた圧縮成形材料(上)とOPT活用MDF(下)

バイフォー躯体とカナダの高品質建材を一緒に展開した。また、今年是中国建材関連メーカーが、今年にPRブースを出展し一画を占め、客足はまばらであったものの、アフターコロナに向けた商売への意気込みが感じられた。

今回展では、コロナ禍中で感染対策に関係する出品物が目立った昨年展とは一変し、最新技術を駆使した新開発商品が多々会場を彩っ



▲ソフト開発力で様々なユーザーニーズに応える宮川工機(株)。左は屋根バスゲーム「M-ROOF」画面

ていた。一方で、国内の大手建材メーカーの出展は見られず、開けばこの1〜2年で自社ショールームやオンライン活用へと方針転換している所もあるようだ。それでも尚且つ、SDGsを体現する一大プロジェクトの成果や高付加価値建材の開発・紹介、新商材の提案等々、見応えある製品群が様々に会場を彩った。

パナソニック(株)は、アブラヤシの廃材を利用したサステナブルMDF「OPT(Oil Palm Trunk) 活用ボード」を新開発。パーム油の回収が終わったアブラヤシの幹は、これまで埋め立て処分されており温室効果ガスのメタンガスを発生させて大きな環境問題となっていた。その廃材をチップに粉砕し、特殊洗浄を行なった後に、チップからボード製造に向けた長繊維を取り出して圧縮成形する。その成型材料を使い既存工場MDFを製造す



▲(一社)全国木材組合連合会はクリーンウッドを推進



▲ロシア白樺合板は良音空間など様々な活用可能。12mm厚の構造用合板もラインナップ(株)テツヤ・ジャパン)



▲高品質なカナダ製建材とツーバイフォー最新技術を紹介(カナダウッド)



▲LVL製のペットハウス。アジア・ファニシング・フェアではペット需要向けに様々な新商品を提案



▲夏こそ断熱が必要。トウヒ100%の木繊維断熱材シュタイコ(株)イケダコーポレーション)



▲Stucco Tableは漆喰のような風合いの伊・Stucco社製塗料で、日本古来の色合いをミキモクが再現(アジア・ファニシング・フェア)

フルタニランパー(株)がみらいのたね賞を受賞した。抗火石を既設の蒸気式乾燥炉内に敷き詰め、改質水で効率的に木材乾燥を行なう新乾燥技術は、人工乾燥期間が半分になり、素材の回

転が良くなることで材料置き場を抑えることができ、更に、燃料費が削減できる。仕上がりが良いため製品歩留まりも向上。針葉樹・広葉樹合板、高温乾燥機や中温乾燥機にも導入できるだけでなく、ほとんどの国産樹種での有効性が実証されている。そして、木工機械業界から唯一出展し、且つ、同展の常連出展者ともなっている宮川工機(株)(愛知県豊橋市、宮川嘉隆社長)は、木造住宅に必須の最新の超断面プレカット技術をアピール。一般の人々でも簡単に小屋掛け面図のノウハウを覚えながら遊べる屋根パズルゲーム「M-ROOF」を新開発、披露した。

第25回木質構造研究会技術発表会で第20回大熊賞授賞式が行なわれる

木質構造研究会(事務局:東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻 木質材料学研究室内、稲山正弘会長・東京大学教授)の第25回木質構造研究会技術発表会が12月2日(木)にオンライン開催され、その中

で第20回大熊幹章賞の授与式と受賞者講演が催された。技術発表会には、会員・関係者ら約70名が参加し、木質構造の最新技術研究の結果の数々を拝聴した。大熊幹章賞は、木質材料・木質構造技術研究基金賞の第二部



▲稲山正弘会長

門で、同研究会の会員で、将来性のある技術開発により実用化などの成果が現れている業績を上げた個人またはグループに授

賞状

田尾 玄秀 氏
貴下の「地域産材を活用したトラス構造の開発と中大規模木造の実践」の業績に対し、木質材料・木質構造技術研究基金 第二部門賞(大熊幹章賞)を贈る
令和3年12月2日
木質材料・木質構造技術研究基金 運営委員会 稲山正弘



▲大熊賞受賞の田尾玄秀氏

01木造校舎の構造設計標準の作成に携わり、氏が中心となってJISトラスの接合詳細と構造計算の手法を構築した。JISトラス以外にも、平行弦トラスや張弦トラスの開発・標準化と実大加力試験による検証等を行ってきた。氏が作成してきた数々の標準図は構造設計者を中心に数千ダウンロードを数え、一般流通材を用いた軸組工法での中大規模木造の標準化と実践、普及に多大な貢献を果たしている。近年は、支点桁+方杖架構による「東急池上線旗の台駅」の構造計算を行ない、次々に優れた中大規模木造建築の設計を行なっている。

最後に、同会の名誉会員である大熊幹章・東大名誉教授から、田尾氏への祝いの言葉と共に「この基金賞(杉山賞、大熊賞)が設立されて20年、大変な歴史を重ねていることを感慨深く思う。1973年に杉山英男先生を明治大学から農学林産の方へ招いたことから、木質構造の全てが始まった。杉山先生にはこの分野をしっかりと確立していただき、大変感謝している。当初、第二部門賞は奨励賞の意味合いがあると思っていたが、この度は立派な研究者である田尾さんが受賞され、今後も益々頑張ってください」と、激励の言葉が贈られた。